

### ③ブラウントラウト(魚類)

魚類	国外外来種	
ブラウントラウト		
目名	サケ目	
科名	サケ科	
種名(亜種名:*)	ブラウントラウト	
学名	<i>Salmo trutta</i>	
カテゴリー(北海道)	■A1/□A2/□A3/□B/□C/□D/□E/□h/□K	
カテゴリー(環境省)	□特定外来生物/■要注意外来生物	
カテゴリー(日本生態学会ワースト100) / (IUCN世界の侵略的ワースト100)	■日本の侵略的ワースト100 / ■世界の侵略的ワースト100	
 2004 青山 智哉 提供		
原産地	ヨーロッパからアラル海を含む西アジア	
導入年代	1877年～1926年のいずれか	
初報告	1980年	
全国分布	北海道、神奈川県、長野県、山梨県、栃木県、群馬県など10都道県	
道内分布	ほぼ道内全域	
導入の原因	はじめニジマスあるいはカワマス卵に混入して移入、のちに釣り対象魚として放流された。	
 凡例 外来種も確認された河川		
生活史型	淡水型、遡河回遊型	
形態	頭部は扁平し、尾柄は太い。背側は黄土色に近い茶色で、頭部から背部には薄い色で縁取られた大きな黒点が散在し、側線付近を中心に、白く縁取られた朱点が散在する。但し、大型の個体では、朱点を欠くものもある。降海型では、体側が銀白色、背部は青みがかかる。一般にニジマスより成長速度は遅いといわれており、河川型では1、2、3、4年でそれぞれ9、19、26、31cmとなる。降湖型は大型魚が多数確認されており、支笏湖では90cmを超えるものも釣られている。また、カスピ海では125ポンド(56.6kg)に達するものも記録されている。魚食性が強く、昆虫から甲殻類、他の小魚をよく捕食する(*1)。	
繁殖形態	多回産卵型。本道での産卵期は12～3月。河川上流の淵尻から瀬頭への移行帯の浅い砂礫底に産卵床をつくる(*2)。	
生息環境	河川の上流から中流と自然湖、人工湖および沿岸海域。降海型は、定置網で相当数が捕獲されていることから、沖合いには出ず、沿岸回遊していると考えられる。	
特記事項	非常に魚食性が強い。北米同様、本道においても降海型が母川以外に遡上し、生息域を拡大していることが確認されている(*4)。	
影響		
被害の実態・おそれ		
①生態系にかかる被害	①1)採餌をはじめとするニッチの争奪により、種間競争が発生する。2)産卵床の競合で、在来種の生存率を低下させるおそれがある。3)強い魚食性のため、在来の水圏生物に対し、上位捕食者として直接的な影響を与える。4)上記の事象に加え、母川以外の河川にも容易に遡上し、環境適応度も高いため、結果として在来魚との置換が発生する。5)秋田県では、在来イワナとの属間交雑の報告もある。6)日高地方のある湖沼では、ニホンザリガニへの捕食圧が問題視されている(*6)。	
②農林水産業への影響	②サクラマス(ヤマメ)やシロサケ稚魚の捕食など(*1,2)。	
③人の健康への影響	③不明	
被害をもたらしている要因		
①生物学的要因	①1)在来種であるサクラマス(ヤマメ)やアメマス(イワナ)と同様の環境で、それらより後に産卵するため。2)採餌をはじめとするニッチが在来種と競合するため(*1,2,3)。母川回帰性が弱く、一旦海洋に出ると、近傍の母川以外の近傍の河川にも遡上、繁殖するため(*4,5)。	
②社会的要因	②遊魚対象として人気が高く、北海道内水面漁業調整規則の移殖放流禁止対象魚指定以前は、多くの水系に放流されていたため。	
特徴並びに近縁種、類似種	大型個体はニジマスに似るが、体側の紅色縦帯がないことや、尾びれの黒点がないか少ないことで区別できる(*1)。	
対策	北海道内水面漁業調整規則の移殖放流禁止対象魚	
その他の関連情報	アメリカ・コロラド川では、ねじれ病(Whirling Disease)の媒介主として問題となった。	
分布図	■有り/□無し	
写真/イラスト	■有り/□無し	
備考		
参考文献(省略、ホームページで全文献名掲載)		